

学校教育評価 令和4年度2学期アンケート結果、及び 今年度7月との比較

アンケート実施：令和4年12月（数字は%）

調査人数：全校人（低学年 118/127人・高学年 122/133人）

保護者アンケート児童数配布 回答数 40人（家庭数戸 188）

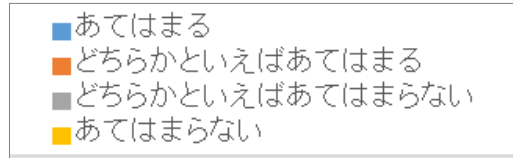
教職員 15人

評価：A（あてはまる）

B（どちらかといえばあてはまる）

C（どちらかといえばあてはまらない）

D（あてはまらない）



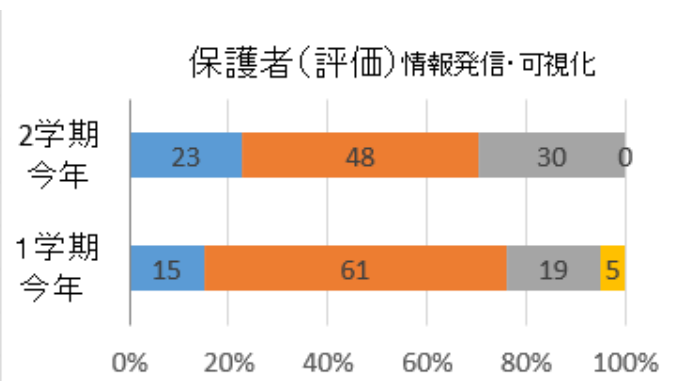
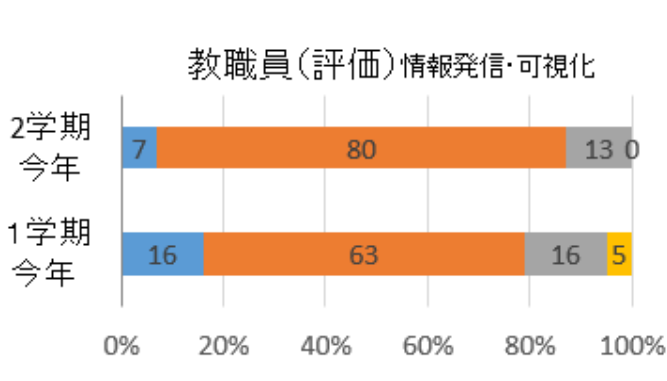
【開かれた学校づくり】

・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。

教職員（問1）学校からの家庭や地域への情報発信はよくできている。

保護者（問1）ホームページやメールなどにより、学校の様子がよくわかる。

			A	B	C	D		達成 状況
教職員	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問1 7	80	13	0	B	B
保護者	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問1 23	48	30	0	B	



【記述欄】

- 学年で児童達が今何に取り組んでいるのか、何を頑張っているのかもっと知りたいです。
- ホームページの学年ごとのお知らせが、もう少し更新されるとありがたいです。(写真も)

【分析・今後の対応】

学校としては多くの業務を抱える中で、ホームページや安心安全メールで情報発信しており、今年度の発信頻度が適当と考えている。しかし、保護者の肯定的回答が若干減少しており、今以上に多く情報発信してほしいと願っておられる様子がうかがえる。学校業務の状況から考え、限界はあるが、今年度の情報発信頻度より少し多く情報発信し、保護者の要望に少しでも近づけられるよう検討する。また、お知らせメール等に普段の様子が伝わる画像を添えるなど、子どもたちの姿が伝わる機会を増やしていく。さらに、子どもたちの普段の様子や学習の様子については、毎月予定している学校へ行こう DAY や参観日等で、生の子どもたちの姿からも知っていただきたい。

【生活指導】

- ・家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。
- ・感染について正しく理解し、感染予防に努める子どもを育てる。

〈自律について〉

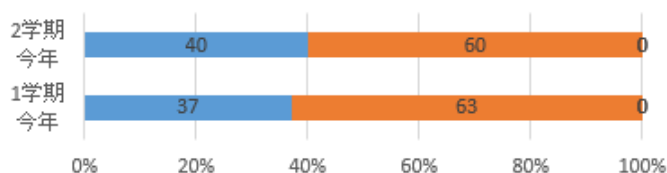
教職員 (問2) 児童が判断したり、決めたりする機会を増やしている。

保護者 (問2) 家庭で自分からやろうとすることが増えてきた。

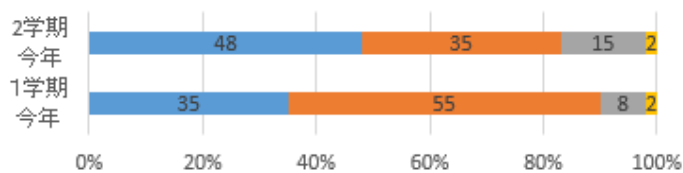
児童 (問1) 自分で考えて行動している。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが60%以上	問2	40	60	0	0	A	A
保護者	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが60%以上	問2	48	35	15	2	B	
児童	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが60%以上	問1	44	46	8	2	A	

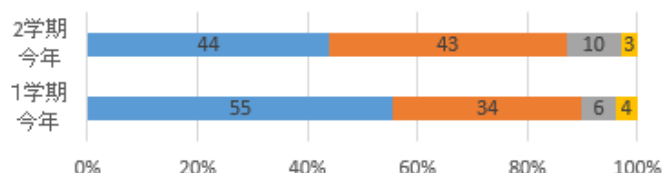
教職員(評価)選択・判断の機会の充実



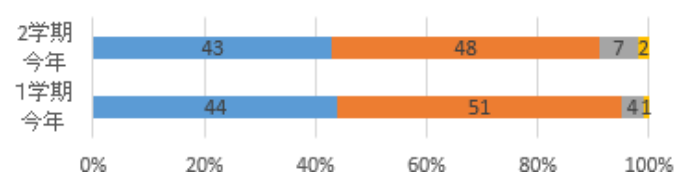
保護者(評価)自分からやろうとすることが増えた



低学年(評価)自分で考えて行動



高学年(評価)自分で考えて行動



【記述欄】

- 低学年だからなのか入学当初から集団行動が全く出来てない。

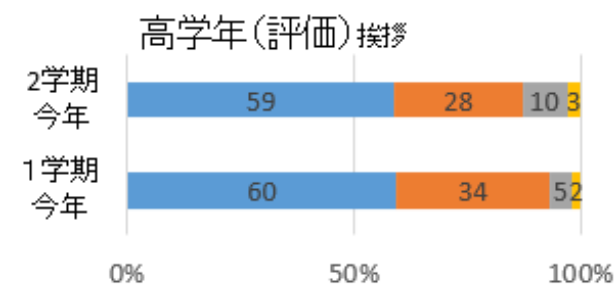
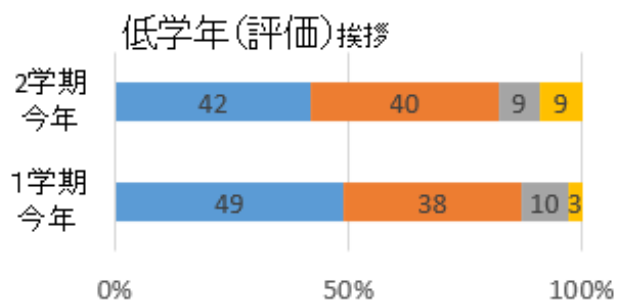
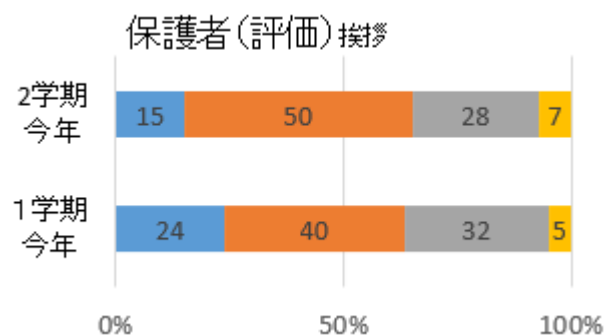
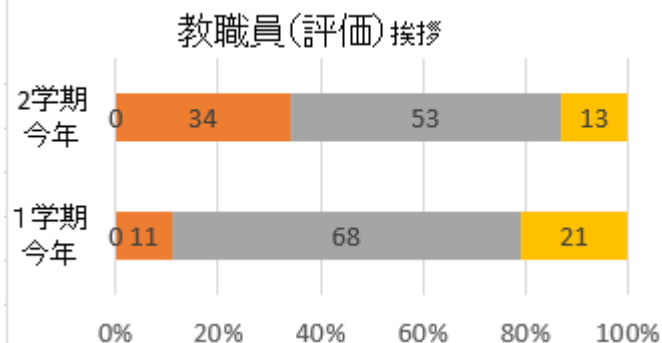
【分析・今後の対応】

アンケート結果から、教職員は1学期と比べて自律について取り組む機会を増やそうとしていることがわかる。また、自分で考えて行動していると考えている児童は、低学年は昨年度と同程度であるが、高学年ではそう考える児童が9割を超えており、これは昨年度より7%も高い数値であり、自律した行動が定着してきていることを表していると思われる。また、保護者の結果でも昨年度より4%高い数値になっていて家庭や地域においても自分で考えて行動する姿が増えたと肯定的にとらえられている。これは、自律に向けた指導が一定の効果を上げているのではないかと考えられる。引き続き児童の自律心を高めるための指導を家庭と連携を図り、本校の教育活動への理解を求めながら積極的に進めていきたい。

〈挨拶について〉

- 教職員 (問3) 子どもたちは、学校で挨拶をしている。
- 保護者 (問3) お子さんは、家でも、学校でも、地域でも、よく挨拶をしている。
- 児童 (問2) 家でも学校でも地域でも、自分から進んであいさつをしている。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 60%以上	問3	0	34	53	13	C	B
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 60%以上	問3	15	50	28	7	B	
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 60%以上	問2	51	34	9	6	B	



【分析・今後の対応】

児童は自分から進んで挨拶をしていると答えた児童は85%で、1学期より減少している。保護者の結果も65%という低い数値であり、児童が家庭や地域でも挨拶ができていないという実態があると思われる。学校でも自分から進んで気持ちの良い挨拶をする児童もいるが「おはよう」と声をかけても返さない児童の姿が見られることがあり、挨拶に対する意識の低さが感じられる。マスク生活になったことも原因の一つと考えられるが、今後挨拶の目的を伝えたり、児童会等を活用して挨拶が活性化する取り組みを考えたりしていきたい。また、保護者にも挨拶の啓発を行って、PTA・家庭と連携して取り組んでいきたい。

【学習指導】

- ・「聴き合い、対話し、学び合う学び」を通して、「わかった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。
- ・協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団づくりに努める。

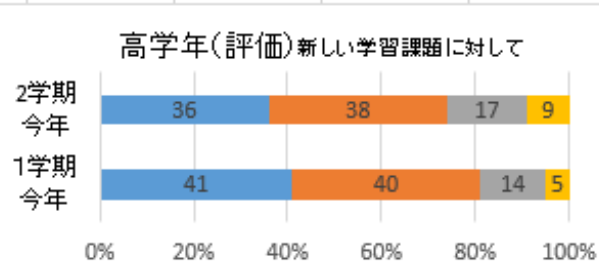
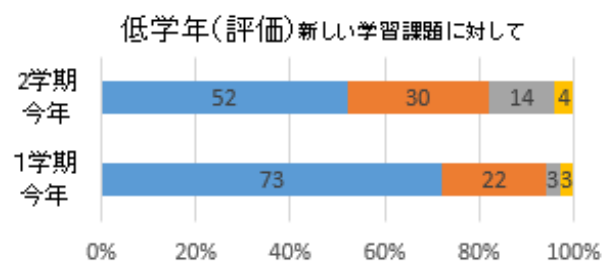
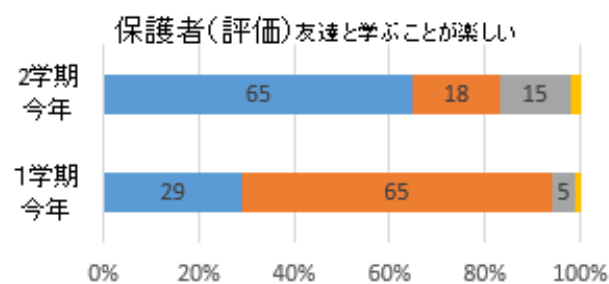
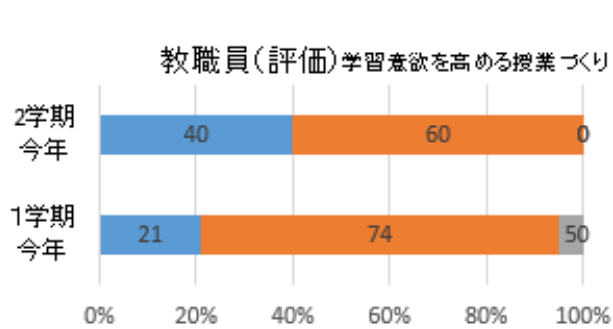
〈学ぶ意欲について〉

教職員 (項目4) 学習意欲を高める授業づくりに努めている。

保護者 (項目4) お子さんは、学ぶことを楽しんでいる。

児童 (項目3) 新しい課題、学習に取り組む時は楽しみだ。

			A	B	C	D		達成 状況
教職員	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問4 40	60	0	0	A	B
保護者	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問4 65	18	15	2	B	
児童	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問3 44	34	16	6	B	



【分析・今後の対応】

教職員については、1学期と比べて、児童の実態に応じた学習意欲を高める授業づくりへの意識が向上している。「子どもが学ぶことを楽しんでいる」と強く感じている保護者の割合が大きく増加していることから、2学期以降の意欲的に学べる授業づくりや協働的な学びの場づくりなど、教職員の授業改善への意識向上が結果として表れていることがうかがえる。

一方で、児童のアンケート結果からは、新しい学習課題に意欲的に取り組もうとする児童が全体的に減少傾向にある。学習内容の高度化が顕著な高学年だけでなく、低学年でも肯定的な回答が10%以上減少し、2割弱の児童が否定的な回答をしている。

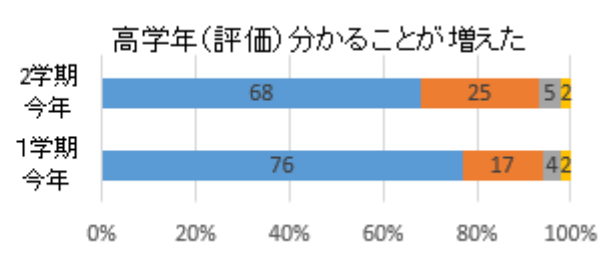
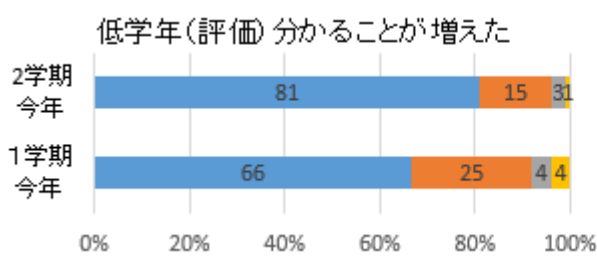
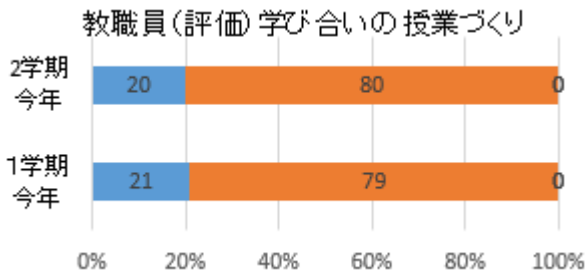
以上のような分析結果から、児童の生活経験や疑問に基づいた課題設定、個々の学力や意欲の差に応じた学習方法などを今後も検討していく必要がある。また、授業・家庭学習・朝学習といった学習活動において、つまずきや苦手を学び直す機会を日常的に設けることで自信を持たせたり、自身の学び方を自覚させることでより良くなるよう自己調整を促したりする手立てを検討していきたい。

〈分かった・できたの実感について〉

教職員 (項目5) 友だちの意見を聞いたり、考えを広げたりと、学び合いの授業づくりをしている。

児童 (項目4) 勉強をしていて、少しでも分かることやできることがふえてきた。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問5 20	80	0	0	A	A
児童	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問4 75	20	4	1	A	



【分析・今後の対応】

教職員、児童のアンケート結果はともに達成状況がAであり、良好な結果といえる。

今後、教職員ではA評価が伸びるような学び合いの質を高める取組を進めていきたい。ICT機器の活用による視覚的な情報共有はもちろんだが、音声言語によるコミュニケーションの場を大切にしていきたい。相手意識を持って場に応じた工夫をしながら伝えることや、話し手の意図や要点を捉えようと意識しながら聞くことは、学習内容の質の向上と合わせて高めていく余地が十分にある。日常的な授業だけでなく、集会や表現タイム、人権総合発表会といった行事も活用していきたい。

児童の結果でも、低学年・高学年でどちらも肯定的な評価が9割を超えている。しかし、実感に至った過程が教師の指導によるものか、個人の努力によるものか、友達との協働によるものかが曖昧であり、教職員の結果と一概に比較できない。肯定的な意識を持つ児童が多いことをプラスに捉え、「先生が教えてくれたから分かった」から「友達と一緒に学んだから分かった・考えが深まった」など、学び合いの価値が認識できるような学習活動や振り返りを工夫する必要がある。

【人権教育】

- ・学校・家庭生活における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を育むように努める。
- ・児童への心のケアを通して、感染症の影響によるいじめ・差別・偏見等の啓発に努める。

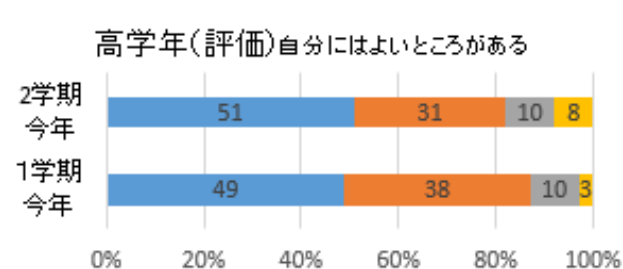
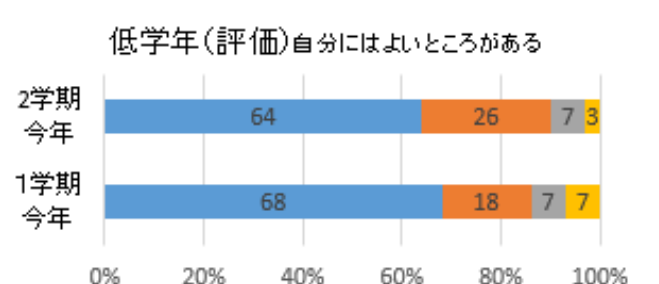
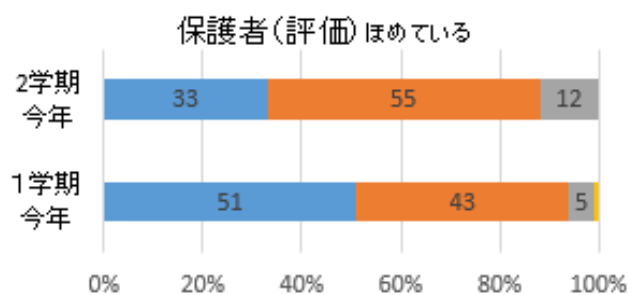
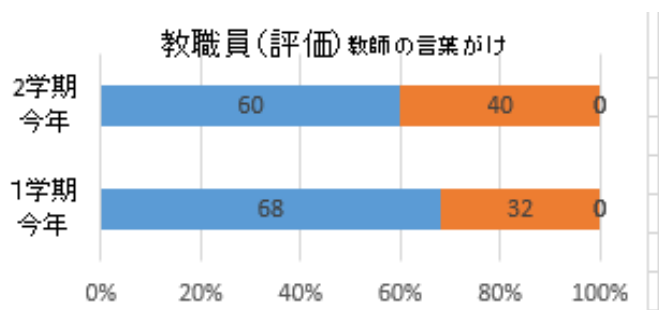
〈自尊感情について〉

教職員 (項目6) 子どもの伸びを認める言葉かけの質の向上に努めている。

保護者 (項目5) お子さんのがんばりやよいところをほめている。

児童 (項目5) 自分にはよいところがある。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 6	60	40	0	0	A	B
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 5	33	55	12	0	B	
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 5	58	28	8	6	B	



【記述欄】

- 温かい言葉を掛けてくださる先生がいて、ありがたいです。これからもよろしくお願いします。
- 落ち着きがなく独り言が大き過ぎる息子、スムーズな授業を成り立たせるためにはマイナスになりそうな行動なのですが、担任の先生は息子のその行動をクラスのワクワクの動機づけとして取り上げてくださっているようで、親としても本人としても安心して過ごせる空間をいただいたように感じております。一見マイナスに見える行動をプラスにとらえて伸ばしてくださる先生方に大変感謝しております。
- 抱えている気持ちや考えはたくさんあるのに、これまでは自分から発信することがなかなかできずにいた娘ですが、毎年毎年そんな娘を受け止め、見守り、ベイベーステップを褒めて伸ばしてくださる先生方のおかげで、自発的に手を挙げて意見を言えることが増えてきました。例え発表出来なくても、文字で伝えるという事も積極的にできるようになってきたように思います。そんな中でお友達とぶつかる事もあったりはしますが、きちんと社会と関わると言う観点で見れば、良い傾向なのではないかと思っております。細かい部分までよく見てフォローしてくださる先生方に大変感謝しております。

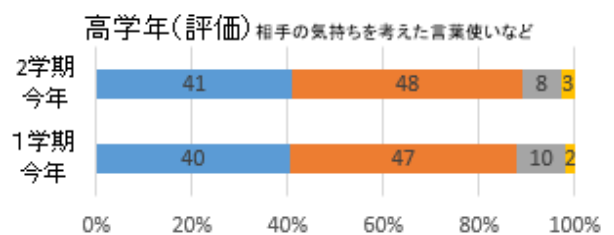
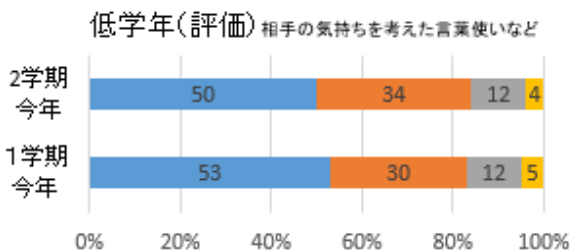
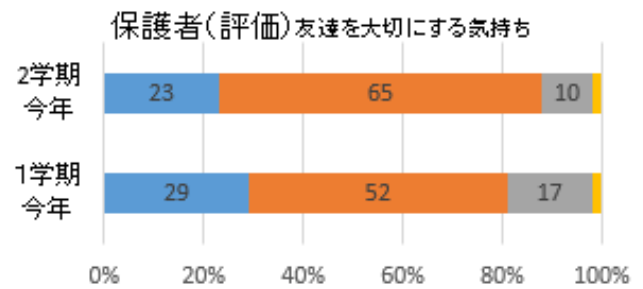
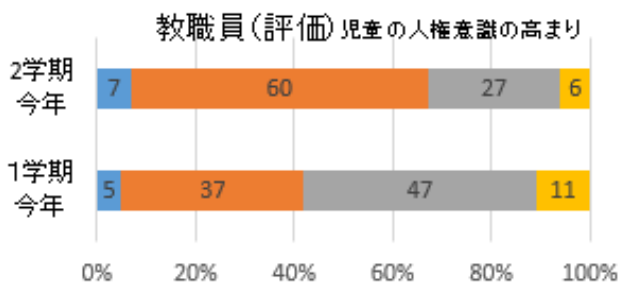
【分析・今後の対応】

教職員、保護者ともに、子どもの伸びや頑張りを認める声かけを日常的に意識し、行うことができている様子が見え、高い評価を維持している。2学期は行事も多く、子どもたちの成長や日々の頑張りをを見つける機会が多くあったことも結果とつながったように思う。また、子どもたちについては、学級の終わりの会などで一日を振り返る場面や掃除の時間の反省を行う中で「今日の頑張りさん」を見つけて褒め合うことをしている。また、月目標でも「いいねを見つけよう」や「ありがとうをつたえよう」という目標を設定し、友だち同士の頑張りや支え合いを意識して生活することを続けてきた。そのような継続した取り組みを通して、子ども達の自己肯定感も育っているように感じる。しかし、10～18%の子については、評価が低い。人と比べて自分を評価するのではなく、どの子も自分の可能性や良さをありのままに感じられるよう、今後も一人一人の小さな伸びやできていることを細かく言葉にして伝えていくことを継続していきたい。

〈人権意識について〉

- 教職員 (項目7) 児童の人権感覚や人権意識が育ってきている。
- 保護者 (項目6) お子さんは、友だちを大切にできる気持ちが育ってきている。
- 児童 (項目6) 相手の気持ちを考えた行動、声かけ、言葉づかいができている。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問7	7	60	27	6	B	B
保護者	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問6	23	65	10	2	B	
児童	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問6	46	41	10	3	B	



【記述欄】

●子供が困った時に話を聞いてくださり、一緒に今後について考えてくださったことに感謝しています。

【分析・今後の対応】

教職員の評価については、今年度の1学期に比べて2学期の評価に伸びが見られ、児童の人権意識の高まりを感じている教職員が増えていることがうかがえる。また、保護者や児童の評価についても高い評価を維持し、人を大切にすることが育ってきている。しかしながら、学校生活の中で、うまく意思疎通ができず喧嘩になったり、選ぶ言葉を間違えて人を傷つけたりする児童も見受けられる。今後も、細やかに児童の気持ちに寄り添いながら、人を大切にすることが育つよう声掛けをしていく。また、本校では、2学期に生活科・人権総合学習に取り組み、中央地区のすばらしさや地域の方の思いを学習し、人権を大切にすることを育んできた。さらに、地域の人や差別解消に立ちむかった人々の生き方を学び、その学習を通して、今の自分を見つめ直し、自分がこれからどう行動していくのかについて学習を深めてきた。今後、自分が頑張ろうと思ったことやこんな行動をしていきたいと決意したことについて、それが達成できるよう、家庭と連携を取りながら、声掛けを進めていく。また、今日的な課題でもある感染症の影響によるいじめ・偏見に対する啓発を繰り返し行い、安心安全な学級・学校づくりに努めていきたい。

【複数学年複数担任制】

【記述欄】

- 教科担任制はいいと思うのですが、複数担任制は辞めて頂きたいです。中学校のようにホームルーム担任は必要だと感じます。沢山の生徒がいるにも関わらず、一人一人のことをともしっかりみていただいていると感じています。色々な相談もしやすいです。今の5、6年生は誰に相談していいかも分からず、子どもの事を聞いても全然みてくれないなど感じる事が多々あります。大切な高学年なのに先生との信頼関係、絆も生まれず、とても残念で悲しいです。
- 複数担任制は先生の観点から観れば負担軽減になり良いとは思いますが、その反面、生徒と向き合う時間が年単位の先生に比べ少なくなり生徒が抱える問題を見失いがちになっている。

【分析・今後の対応】

教科担任制については児童の中学校への円滑な接続や、専門性の高い授業を受けることができるなど肯定的な意見がある。子どもたちの自律に向けた取り組みにより、子どもたちが自分の力で取り組もうとする力を伸ばしたり、学習に対しても意欲的に取り組む姿が見られたりしている。

一方で、複数担任制については未だに「個別に子どもを見てほしい。」「誰に相談すればよいかわからない。」という丁寧なフォローを必要とされている意見も残る。各教員の担当学級が変わることにより、わが子を十分に見てもらえていないのではないかと、という不安を感じられている保護者の意見も真摯に受け止めている。

たしかに複数のクラスを担当することにより、教師一人が同じ子どもと関わる時間は少なくなってしまうデメリットがある。そうした意見を受け、毎日担任団で子ども達の情報共有を行い、家庭との連携を図りながら丁寧な支援体制を取ることができるようにしてきた。また、引き続きホームルーム（以下、HR）担任が変わったタイミングで安心・安全メールにてお知らせをするなど、保護者の方の不安を軽減することができるように努めてきた。

子ども達には複数で子ども達の姿を見とることができる点をいかし、良さや課題、様子についての情報共有を行いながら、適切なフォローができるように努めていく。子ども達の自律を促していけるような支援を図っていけるように職員チームとして今後も取り組む。

【その他】

【記述欄】

- 子どもの行動と保護者の行動に関する質問が多く、学校評価になっていないと思います。
- 登下校時、道に広がったり危ない行動をとる子がいるようで注意してもゆうことを聞かないようです。再度学区児童会なり学校側からも声かけをお願いします。

【分析・今後の対応】

学校評価については、数値化した客観的なデータを根拠にしなければならないと考えている。そのデータを取るためのアンケートでは、評価指標ができるだけイメージしやすいよう、子ども、教師、保護者それぞれの具体的な姿を項目にしているので、ご理解いただきたい。ただ、数値では表せられない部分を補うため、自由記述も設けており、その声も大切にしながら、子どもたちにとってより良い学校生活となるよう、今後も検討、改善を図っていきたい。

登下校については、安全担当を中心に学校教育の中でも指導は行っているが、ご指摘の通りまだ十分ではない。今後も継続して安全指導を行っていく。また、登下校の安全確保は学校だけが責任を持つものではなく、保護者の協力は不可欠である。危険な様子を見られたら、その都度注意していただくことは継続してお願いしたい。